



野外施設自然情報

※野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます↓

県立自然環境保全センター 生き物 検索



自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にいろいろふれることができます。

このかわせみ通信では、主に7~9月に記録された野外施設の自然の情報を掲載していきます。

<気になる生き物>

●ニホンミツバチ観察記録

4月に見られたニホンミツバチの蜂球を覚えていますか？それから2ヶ月後の6月17日、樹木観察園のキリの幹に空いた小さな穴にミツバチの巣ができていました。あの蜂球のミツバチかな？なかなか見ることのない自然のミツバチの巣をみんなで見守りました。

7月下旬、ミツバチの数が増えてきた巣のまわりを、様子を伺うように1匹のキイロスズメバチが飛ぶようになりました。キイロスズメバチは幼虫のエサにするためミツバチを襲うことがあります。しかし、ミツバチもそう簡単には捕まりません！入口にいるたくさんの門番の働き蜂は一斉に体を振るわせ、見事なチームワークでスズメバチを牽制していました。

しかし8月11日、巣には数匹のキイロスズメバチが。たくさんいたミツバチの姿はありません。ミツバチたちはどうなったのでしょうか…？

ニホンミツバチは天敵のスズメバチを集団で封じ込め体を発熱させ殺すこともあります。しつこく狙われたり、周囲の環境が良くないと巣を放棄して別の場所へ移動することがよくあるそうです。このミツバチたちも、危険を感じ引越を決めたのかもしれませんが。このようにスズメバチに対して集団で戦ったり、引越したりする習性はニホンミツバチ特有で、外国から移入し養蜂に多く用いられているセイヨウミツバチには見られないそうです。同じ地域に生息し、長い年月をかけて、バランスの取れた「食う食われる関係」ができあがっているのだなと感じました。

後日、園内のフクワバモクゲンジの花にやってきたミツバチを見つけました。どこかに新しい巣を作っているのでしょうか。巣を作り直すのは大変そうですが、またたくさん蜜を集めて、冬に備えてほしいですね。



巣の入口を守るニホンミツバチ(8月7日)



巣の前を飛ぶキイロスズメバチ(8月7日)



フクワバモクゲンジの花にきたミツバチ(9月4日)

<訂正> 第5号で蜂球の記事を取り上げた際に、新しい女王蜂が元の巣を離れると紹介しましたが、正しくは古い女王蜂が元の巣を離れ新しい巣を作ります。訂正させていただきます。

●初確認

8月28日、樹木観察園にてコムクドリが観察されました。20羽ほどの群れでアカメガシワの実を食べていました。多いときは50羽ほど見られ、9月19日まで観察されました。夏鳥として渡来し、本州中部以北の林にすみませんが、保全センターでは今まで記録がなく初確認です。ムクドリというと鳴き声がうるさくちょっと嫌われ者のイメージですが、コムクドリは一回り小さく、白い顔がかわいらしい鳥でした。



コムクドリのオスは頬が赤い

●H28 ザリガニ釣り報告

今年も自然観察園で外来生物、アメリカザリガニ釣りを行いました。5月14日から9月25日の期間に、1,047人の来園者に参加していただき、6,930匹の釣果がありました。

自然観察園のアメリカザリガニの記録は1990年に来園者によって持ち込まれたのが最初です。4年後の1994年には、それまで池の水面をびっしり覆っていたアサザがすっかりなくなり、ミドリムシが大発生。園内の生き物に大きな影響を与えてきました。ザリガニ釣り参加者からはよく「こんなに釣っているのにいなくなるの？」という声が聞かれます。アメリカザリガニはさまざまな水生生物や植物のほか、池に大量に流れ込んでくる落ち葉も食べるため、エサがなくなることはなく、完全に駆除することはほぼ不可能というのが現状です。アメリカザリガニに限らず、決定的な解決策がないのが外来生物の問題です。移り変わっていく生態系の一部としてうまく共存していくべきだとも言われ始めています。そんな中で私たちは、ザリガニ釣りを通して、外から持ち込んだ生き物がもとの生態系に影響を及ぼす可能性があることを少しでも多くの人に知ってもらいたいと思っています。ペットを飼育するときには最後まできちんと世話をしよう、生き物採集するときには別の場所に放すのはやめよう、そんなことを思い出してもらえたらいいな…、と願ってこれからも続けていきたいと思っています。

<最近の話題>

●台風の爪痕

8月22日に関東を通った台風9号によって、自然観察園でも数本の木が倒れるなどの被害がありました。中でも地番杭N7付近は、北向きの斜面の土砂が崩れ、観察路に流れ込んでしまったため、しばらく通行止めとなりました。土砂を撤去したり、壊れた橋を架け替えて、10月上旬に通れるようになりましたが、付近の植物が戻るにはもう少し時間がかかりそうです。以前見られたヤマブキソウやハグロソウはまた生えてくるかな？ぜひ観察してみてください。



土砂が崩れ観察路が見えなくなっている

近年は異常気象が多いと感じている人も多いと思います。短時間にたくさん雨が降るゲリラ豪雨も増えています。もともと谷戸の斜面は降った雨が地中にしみ込み、伏流水として少しずつ浸み出していました。森林が持つ水を貯める機能ですが、この森林の機能を上回るような気候に変化してきているのかもしれません。



復旧作業後

ミニ観察会 (申込不要・参加費無料・雨天決行、当日午後1時に本館前集合)

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。時間は約2時間です。

11月：3(木・祝)・6(日)・13(日)・20(日)・23(水・祝)・27(日)

12月：4(日)・11(日)・18(日)・23(金・祝)・25(日)

H29年1月：8(日)・9(月・祝)・15(日)・22(日)・29(日)





自然環境保全センター（旧自然保護センター）の傷病鳥獣の救護業務は、主に人間の活動が原因で傷ついて保護された県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を中心に昭和 53 年から行っています。

この「かわせみ通信」では、県民の皆様により持ち込まれた救護動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

<平成 28 年 7 月～9 月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種

1 位	ツバメ	30 件
2 位	スズメ	21 件
3 位	ヒヨドリ	15 件
4 位	キジバト	10 件
5 位	カルガモ	5 件
5 位	トビ	5 件
5 位	ハクセキレイ	5 件
5 位	タヌキ	5 件

人間が関係する主な救護原因

鳥類		哺乳類	
窓ガラスなどへの衝突	15 件	交通事故	3 件
ネコなどに襲われる	11 件	疥癬症(かいせんしょう)	3 件
巣の撤去	9 件	ネコなどに襲われる	1 件
釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	4 件		
交通事故	3 件		
粘着剤に絡む	2 件		

●平成 28 年度 野生動物救護ボランティア講習会の修了式を行いました！

共催：公益社団法人神奈川県獣医師会、特定非営利活動法人野生動物救護の会

今年もまた、自然環境保全センターで傷ついた野生動物のお世話やリハビリなどのボランティア活動をしてくださる方を募集しました。

申し込んでくださった方にはまず、6 月 4、5 日に行われた講習会において、野生動物関連法規、野生動物救護の現状やボランティア活動の実際、野生動物救護の理念、動物由来感染症といった、野生動物と接するにあたっての心構えを中心に学んでもらいました。

続いて、夏の間当センターにおいて 3 日間、職員または先輩ボランティアから鳥獣舎の清掃方法、動物達のケアの仕方などの実務を学んでもらいました。

こうして全てを修了した 42 名の方が、9 月 25 日に行われた修了式をもって新たなボランティアとして登録されました。

ボランティア活動では、野生動物のお世話やケアをすることはもちろん大切ですが、それだけではありません。野外での観察、直接動物には関わらなくても自分にできることを考えて行動することも大切です。今後活動を始めるにあたり、不安なこともあるかと思いますが、先輩ボランティアの皆様のご協力のもと一緒に考え、活動していただくことを期待しています！どうぞ宜しくお願いいたします。



講習会(講義)の様子



講習会(実習)の様子



修了証授与式の様子

●ムササビを育てています

当センターには現在、2頭のムササビ（授乳中の幼獣）を人工哺育しています。ムササビは、高木の多い林などに棲む夜行性の動物でげっ歯目リス科に分類されます。種子や葉・花・果実などを食べ、樹上で暮らし、木と木の間を滑空する愛らしい姿をした日本固有種です。

1頭目は、8月16日に秦野市内（53.5g）で保護されて、まだへその緒の跡が残っており、低体温の状態でした。もう1頭は、8月18日に相模原市内（114.5g）で保護されて、鼻から出血しており、低体温で脱水状態でした。どちらもオスで日齢の差はあるものの、まだ目が開いておらず、あまりの小ささに当初は助かるかどうか不安でした。しかし、多くのボランティアの方の手厚いケアのお陰で、1日5回だったミルクの哺乳は3回までに減り、相模原市内で保護されたムササビは、ようやくミルクの他に果物などの固形物も食べられるようになり、秦野市内で保護された方も果物ペースト入りミルクを飲むまでに大きくなりました。そして、すくすく成長するムササビたちにボランティアの方がミニ巣箱をつくって下さいました。2頭ともすぐに気に入った様子で日中はミニ巣箱の中でよく眠っています。歯もしっかり生えてきて巣材の木をかじって楽しんでいる時もあります。この他にも果物やクルミなどを持ってきてくださる方、自力で排泄ができないので陰部を優しく刺激して糞や尿を出してくださる方、また滑空をするための飛び移る訓練などをしてくださる方など、ボランティアの皆様のたくさんの愛情によって、2頭は50cmくらいのムササビダイブができるようになりました。しかし、ムササビはすぐに下痢をおこして死亡することがあるので、まだ気が抜けない日々が続いています。この2頭の成長過程については、今後も紹介できればと思っています。



秦野市内で保護されたムササビ(受付時)



相模原市内で保護されたムササビ(受付時)



巣箱が気に入った様子のムササビ

【イベント情報】

●救護動物特別公開を行います！

日時：平成29年3月12日（日）13:30～15:30

場所：自然環境保全センター 鳥獣保護棟

申込不要・参加無料・雨天決行（強風や大雨など悪天候を除く）

※感染症などの発生により中止する場合があります。ご了承ください。



【お知らせ】

●傷病鳥獣受入れ定休日の試行を行います

定休日：毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）、年末年始（平成28年12月28日から平成29年1月4日）
試行期間：平成28年11月1日から平成29年3月31日 ※事情により、期間が変更する場合があります。

●傷病鳥獣救護に関するお問合せ番号が変更になりました

お問合せ番号：046-248-0500

受付時間：9時00分から16時30分

ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。